

令和7年12月定例教育委員会会議録

1 日 時 令和7年12月18日(木) 午後3時～午後4時10分

2 場 所 氷見市役所 教育委員会室

3 出席者 有島洋之教育長、湖東政俊職務代理者、圓山留美委員、佐原孝信委員、菊池響委員

4 職務のため出席した事務局員

萩原教育次長、西参事、尾山学校教育課長、小谷文化振興課長(兼博物館長、図書館長)、長谷川スポーツ振興課長、森谷教育総合センター所長、坂下学校給食センター所長、菽下学校教育課長補佐、砂山文化振興課長補佐、田邊スポーツ振興課長補佐

5 協議事項

【報告案件】

- (1) 報告第1号 令和7年度教育論文・教育実践記録募集及び表彰式等について
(教育総合センター)
- (2) 報告第2号 令和8年「二十歳のつどい」の開催について(文化振興課)
- (3) 報告第3号 「第72回文化財防火デー」に伴う消防訓練の実施について(博物館)

6 会議内容

- (1) 教育長の挨拶
- (2) 教育長の報告

令和7年11月29日(土)から12月18日(木)までの教育委員会所管事項を、有島教育長が報告した。12月市議会定例会の質問について各所属長が説明した。

(3) 協議内容

報告第1号は森谷所長が、報告第2号は小谷文化振興課長が、報告第3号は小谷博物館長が説明・報告した。

(4) 1月の行事予定を各所属長等が説明した。

[質疑応答]

・窪小学校の長寿命化工事について

委 員 窪小学校のグラウンドの建物が撤去されていたが、工事は終了したのか。

事 務 局 仮設校舎の上の部分は撤去を完了しているが、今は基礎部分の撤去を進めている。本日、現地へ行ったが、天候が良いことで基礎の半分くらいは撤去を終えていた。今後も天候が良ければ進めていくが、グラウンドの整地を行うためには天候の良い日が続く必要があるため、3月頃を目途にグラウンドを開放できるのではないかと考えてい

る。

委員 子供たちには思い切ってグラウンドを使ってほしい。現在は半分しか使えないので、かわいそうだと思っていた。

・氷見市まち・ひと・しごと創生会議について

委員 12月8日の氷見市まち・ひと・しごと創生本部会議と12月17日の氷見市まち・ひと・しごと創生推進会議の違いは何か。

事務局 創生本部会議は庁内での会議であり、その会議によって資料を作成するものである。創生推進会議は、市民の代表の委員の方々を集まっていたいてその内容について議論していただくものである。

・学校給食費の無償化について

委員 学校給食について、国が基準額の5,200円で無償化を行った場合、給食センター並びに自校給食校においてその額を上回ることはあるのか。

事務局 現在の状況でいうと、氷見市は月額6,600円程度である。

事務局 本日の報道では、5,200円を上回る場合は追加で経費が必要となるため、自治体が足りない部分の予算を確保したり、保護者から徴収することも想定されるとなっているが、日々情報が動いている。

事務局 負担の仕方も流動的である。

事務局 国と都道府県で折半するという方向になってきているようである。

事務局 県からは、全額国で保証してほしいと知事会で要望していると聞いている。富山県は給食費が高い。

事務局 都道府県レベルでは、月額で1,500円程度の差がある。

事務局 費用をかけて、栄養も考えたおいしい給食を提供しているということである。

事務局 給食費が高い理由としては、教育熱心な県であることから給食の日数が多いことも考えられる。

・廃校のLED化について

委員 廃校の利用について、市内に廃校が沢山あるが、蛍光灯のLED化が気になる。とても長い蛍光灯が付いているが、製造中止、販売禁止になったときに、各施設がLED化について悩んでいると聞いた。緊急性が高い順でLED化を行ったときに、この先は、どう対応する予定か。

事務局 仰るとおり、建物も大きく、蛍光灯も長い。全体を一気に行くことは難しい。製造中止や輸入中止が決まっているので、市全体で対応することとなるが、なかなか早くは進まないのではと考えている。

・教育文化センターの改修について

委員 教育文化センターについて、ゼロベースで検討していくとのことだが、子供たちにとって集まりやすい施設としていく具体的な案があるのか。

事務局 教育文化センターがゼロベースではなく、旧市民会館跡地に建てる予定であった、令和5年度に基本設計していた「ひみ発見館」について、震災もあったのでゼロベースで見直すということである。もともと、耐震や空調も危ないという状況にある教育文化センターの改修を前倒して実施する。防災面という部分と子供たちや若い方々にも使ってもらえるとういことが大きな視点だと思っている。具体的な方向性はこれからである。

委員 「ひみ発見館」の時に大体の構想ができていたと思う。それを土台にして今回の構想を立てていけば良いのではないのか。

事務局 その時にも、発見館にどのような機能をもたせるかを検討し、基本設計まで行っていたので、そのまま教育文化センターの機能として取り入れるのか、もう一度見直すのかを含めて検討したい。発見館の中には子供たちのレストスペースやふるさと教育的な部分などがあり、教育文化センターに落とし込むことが有効かどうかとも考えながら、より高い良い施設を目指したい。

委員 当時は皆さんに何回も集まっていたいただいて決定していることなので、そういったものを組み入れることができればよいと思う。

事務局 計画では発見館の工事が終了後、教育文化センターの改修を行う予定であった。発見館がどんどん後ろ倒しになったことにより、教育文化センターの改修がもう待てない状況となったため、センターの方を前倒しできないかと教育委員会として要望し、認めていただいた。発見館をいったんゼロベースにし、教育文化センターに発見館に予定していた機能をどれだけ取り入れるかを今後文化振興課を中心に計画を練っていくという状況である。

委員 氷見市として教育文化センターを使いやすく良い状態にし、氷見の教育を充実させていかなければならないと思う。

事務局 議会質疑の中で、ひみ発見館をゼロベースにし、教育文化センター改修を前倒しすることを市長に答弁していただいているので、その方向で進めていこうと思っている。

・教育論文・教育実践記録の応募について

委員 教育論文や教育実践記録の応募が少なくなっていると思うが、今年度は令和6年度程度の件数になるのか、もっと増えるのかをつかんでいるか。

事務局 校長先生方にもお願いをしているが、応募が何点になるかは開けてみないと分からない

い。

委員 若い先生方も増えているので、応募してみようと思う先生が増えれば教職員の資質向上にもつながると思った。できるだけ応募が増えれば良い。小学校は7点なので各学校が出しているのか。

事務局 7点なので学校数より少ない。

委員 出していない学校もある。

事務局 お見込みのとおりである。

・「二十歳のつどい」について

事務局 「二十歳のつどい」は、中学校3年生の時に部活動の試合などが中止になった世代である。その後、氷見高校で言えば甲子園で選抜大会に出たメンバーの代である。久しぶりに顔を見て、皆で二十歳を祝うことができれば良いと思っている。

事務局 数値的なものはまだ把握できていないが、仮に登録せずに当日来られても大丈夫である。自分が対象者と思う方は、これまでどおり来ていただき出席していただける。

事務局 当日に式が変更になった場合も、ラインに登録していただければ連絡ができる。

事務局 以前大雪で式が変更になったことがあったが、その連絡が大変であったと記憶している。そういった事にもすぐに対応ができる。1月に行うのでその可能性はゼロではない。

事務局 そのことを含めて新たな取組として行っている。今年度良い形で実施できれば、今後はこれが定着すれば良いと考えている。

(5) 2月の定例教育委員会議の開催を2月25日(水)午後3時に決定した。

(6) 閉会 午後4時10分

教育長

教育長職務代理者

教育委員

教育委員

教育委員